



1 2 オリジナル製品をつくる設備の大半は自社技術で賄います  
 3 製品を説明する井上佳典社長 4 樹脂管用の「スナップ継手」

# かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

創

1

## 世界初の メカニカル継手を開発

東尾メック株式会社

水道や空調などの配管用継手メーカー・東尾メック(株)。65年の歴史を振り返りながら、井上佳典社長は「管の種類の変化に対応し、社員一丸となって新しい継手を生み出してきた」と胸を張ります。

鋳物分野のマレアブル(可鍛鋳鉄)継手が同社の原点。昭和40年代に、鋼管の内面が錆びて起こる赤水が社会問題化し、業界は転換期を迎えます。腐食を防ぐため、内部に塩化ビニールを施した複合鋼管継手が主流に。東尾光紹会長は当時、「パ

イブと継手をセットで販売できないか」と考え、パイプメーカーとの業務提携を取り付け販路を拡大。以降その分野で業界屈指のシェアを獲得してきました。

しかし、阪神・淡路大震災をきっかけに試験が訪れます。堅くて強い鋼管配管が耐震面での脆さを露呈。円高などによる輸出減や規制緩和も加わり、マレアブル継手から樹脂管などの多様な継手にシフトすることになりました。

管種変更の時代が到来し、「性能が問われるようになってきた」。井上社長は話します。製品開発チームだけでなく、協力企業の井上スタレ(株)とともに新たな開発への挑戦が始まりました。こうして生まれた主要製品、樹脂管用の「ス



▲冷媒配管用継手「おっぞんくん」

ナップ継手」は、パイプを差し込むだけのワンタッチ施工で、接続時に音がして施工完了を確認できることが特長。また、フロンガス対策を講じた冷媒配管用継手「おっぞんくん」は、従来の火を使う施工ではなく、安全な無火気工法を実現しました。

「今後は新興国など海外でも受け入れられる製品を提案し、将来に向けて人材や事業を育てていきたい」と井上社長。次世代を見据えた挑戦がこれからも続いていきます。



東尾メック株式会社  
1950年(昭和25年)3月設立

「漏れない・抜けない・簡単接続」をコンセプトに、革新的な方法で接続するメカニカル継手を開発し、国内外の特許を多数取得。本社の河内鋳物師の里「鋳物資料館」には、創業からの製品を展示し、その変遷を紹介している。菊水町 8-22 ☎ 53-2281 <http://www.mech.co.jp/>